

マーク、つり革…宗城大生が提案

熊本市電 デザインでもっと楽しく

宗城大芸術学部デザイン学科の展覧会「みらいデザイン kumamoto」が17日、熊本市中央区の同大ギャラリーで始まった。学生たちが、電停のマーク、乗車券、つり革など、熊本市電に関するさまざまなものをデザインし、展示している。24日まで。

授業の一環で、1、3年生が16班に分かれて制作。今年は熊本市電の魅力を高めることをテーマとし、出来上がったマーク、映像、模型などを並べた。

電停のマークは35カ所すべてを制作。「上

熊本駅前」は、熊本を訪れた夏目漱石と小説「吾輩は猫である」のネコのイメージを組み

合わせた。

いう。市電の東部方面への延伸をにらみ、バリアフリーの新しい電停も考えて模型にした。辛子れんこんを連想させるつり革もある。

リーダーの3年前畑和輝さんは「どの班も実現を目指して制作した。デザインによって、市電に乗ったり、見たりするのが楽しくなれば」と話している。



熊本特産のスイカ、レンコン、トマトをイメージしたつり革



学生がデザインした電停のマークなどが展示された会場
＝熊本市中央区